

【みんなの庭から園舎を見る】

園庭を囲むことで、しっかりと守られた安心感が生まれる。 元気に走り回る子どもたち、空だけが見える園庭、守られながらも開放的な居場所。



【 回廊デッキから園庭を見下ろす 】

回廊デッキは園庭の延長であり、立体的な遊び場となる。 運動会や地域のイベント時には、観客席の役割をはたす。



【幼児遊戯室内を見る】

柱の少ない木造トラスのダイナミックな空間を基本とするが、子どもスケールの空間 (小さな家、デン、絵本コーナー等)を設け、子ども一人ひとりが自らの居場所を選び、 または創造できるような空間構成とする。

■ 子どもの好奇心を高め、発達・成長を支える

保育における外部:性格の異なる「6つの外部」

1. 様々なイベントや幼児の遊び場となる「みんなの庭(園庭)」

- 2. 乳児専用の「よちよちの庭」
- 3. 子どもたちの自然体験をうながす「散策の小路」
- 4. 観覧席にもなる、丘のような「だんだんデッキ」
- 5. 高さ約2.7mで園庭を囲む「回廊デッキ」
- 6. 保護者や地域にひらかれた「まちの縁側」

回廊デッキ まちの縁側 だんだんデッニ

■ 子どもの生活と遊びの場として、安心して楽しく過ごすことのできる空間

見守られる安心感と見渡せる安心感を得る

■平面構成(ゾーニング) 各部屋は直感的に ゾーニング 遊戯室 わかりやすいレイアウトとする。 保育部門 2,3 才 0,1 才 ■ 管理部門 ■わかりやすい動線計画 | 地域交流スペース 子どもたちや職員の一日の 活動が円滑になるよう、 職員室 動線計画 空間的な連続性を確保した。 4,5才 → 園児動線 ← 保育士動線 ■速やかな避難計画 ←→ イベント時、地域の方々 中庭型の明快なプランと動線は 速やかな避難を可能とする。

■木造平屋の園舎

- ・コストや工法を考慮のうえ、「木造平屋」とし、温かみのある木材を多用する。
- ◆防火壁1000㎡区画により、柱や内装は木造を可能とした。
- ◆耐震安全性: 構造体 II 類、非構造材B類、建築設備乙類とする。
- ◆木造とすることで建物が軽量となり、基礎のサイズダウンが見込めるなど、

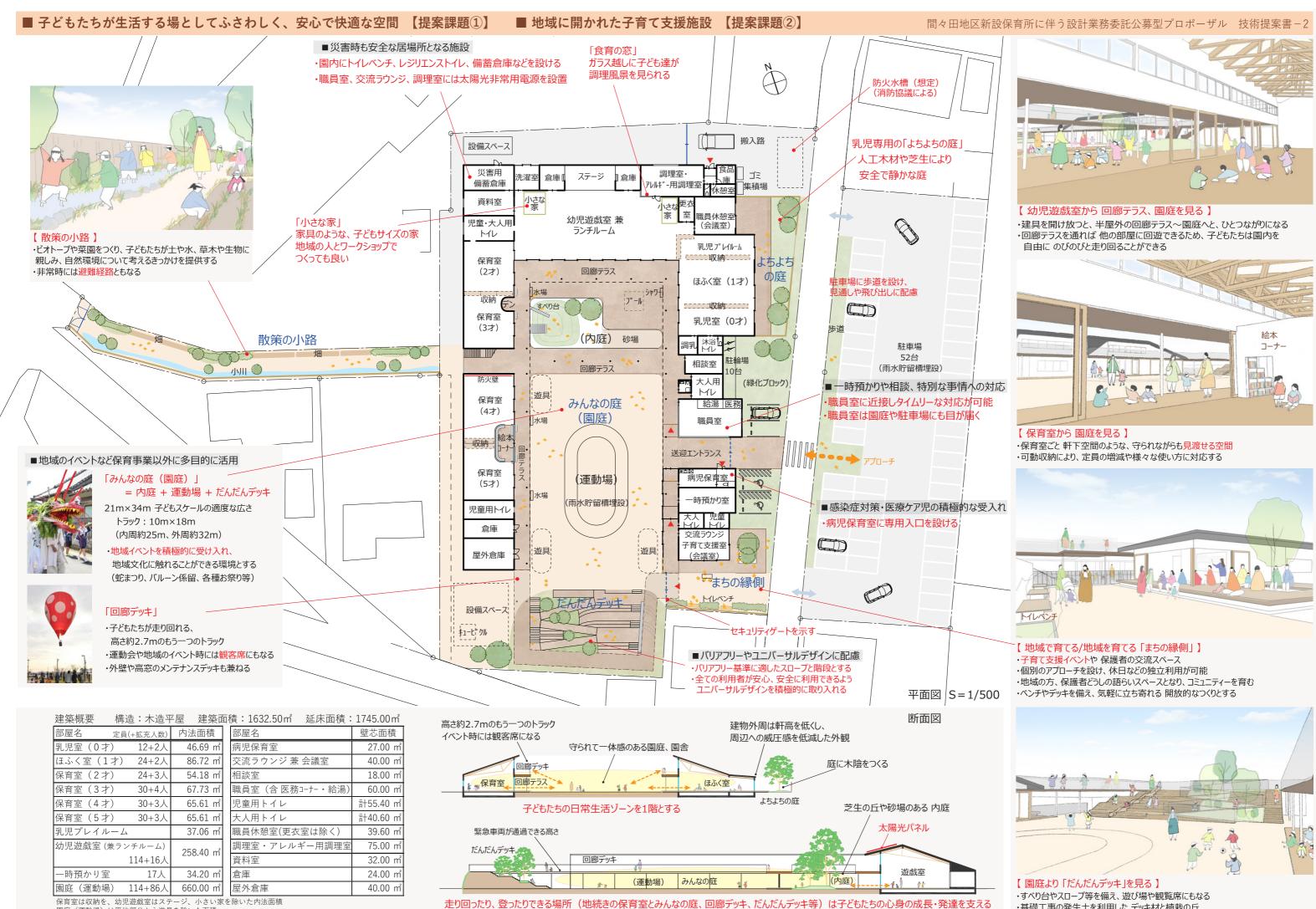
 工事費を抑えることができる。

■子どもが長時間過ごす施設として、心理的に安心して過ごせる室内空間

- ・木の柔らかさや断熱性の高さを利用し、明るくあたたかい雰囲気の内装とする。
- ・既製品に頼らない建築的遊具や家具を製作し、子どもの好奇心を高める。

■安全性や衛生面に配慮した施設

- ・ケガしにくい納まりや、抗菌素材を選択する。
- ・腰部ガラスは「強化ガラス+飛散防止フィルム貼り」とする。

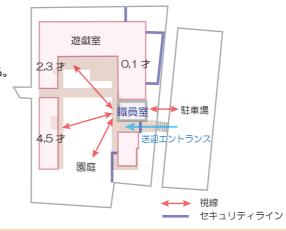


園庭(運動場)は平地部分から遊具を除いた面積

・基礎工事の発生土を利用したデッキ材と植栽の丘

■ 保育士等職員が働きやすい環境整備 【提案課題③】

- 職員の意見を積極的に取り入れ、働きやすい職場環境を目指す
- ・設計当初および設計中に、職員の方々によるワークショップを開催。
- ・各種仕様決定時に、職員が参加できる体制とする。
- ・職員休憩室を環境の良い位置とし、リフレッシュできる居心地の良いスペースとする。
- 子どもの安全を見守るための視認性や、施設管理に配慮した諸施設の配置
- ・部屋が園庭を中心に向かい合っているため、視認性が高い平面構成である。
- ・職員室は送迎エントランス、園庭、駐車場に目が行き届く位置とした。
- 建物の防犯について
- ・建物で囲う構成により、園内への直接の侵入路を絞る。
- ・セキュリティラインはイベントに応じて開閉し、開放度が選択できる。



■ 子どもや職員の変動や状況の変化に柔軟に対応できる諸室の構成

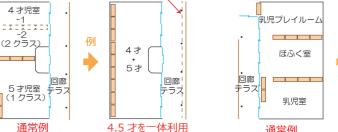
- ・保育室は「可動収納」で2室を間仕切ることで、定員の弾力化や クラス分けなど、フレキシブルな使い方に対応する。
- ・職員が創造性をもって、工夫して使用することができる空間構成とする。

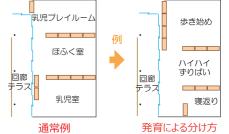
■ 日々の清掃やメンテナンス性を考慮したデザイン、仕上げとする

- ・汚れやすい腰壁部は、拭き取りやすい材料とする。
- ・内装仕上げ材(特に床材)は掃除が容易な材料とする。
- ・水回り(トイレなど)の配管メンテナンスを考慮し、床下ピットを設置する。
- ・内装仕上げの長寿命化と更新時を低コストにする材料の選択。

間々田地区新設保育所に伴う設計業務委託公募型プロポーザル 技術提案書-3

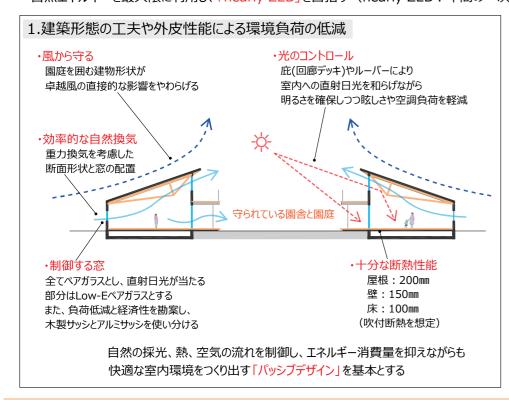
- ・可動式収納の配置により、使い方や子どもたちの状態など 様々な環境の変化に対応する。
- ・計画では、回廊テラスを半屋外(屋根のある屋外通路)としているが、
- サッシ位置を変更して「屋内化」の設計とすることも可能。
- →回廊テラスは床面積に含んでいるため、 室内化した場合も床面積の増は無い。 →サッシ位置を変更すれば、さらなる定員の弾力化にも対応できる。

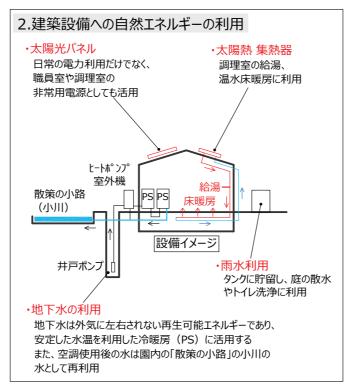




■ 地球環境への配慮 【提案課題4】

自然エネルギーを最大限に利用し、「nearly ZEB」を目指す(nearly ZEB:年間の一次エネルギー消費量を省エネ基準の25%以下まで抑えること目指した建築)





3.快適性と省エネ性を兼ね備えた空調設備

□主要な部屋(保育室、遊戯室など):輻射式冷暖房※

※輻射の原理を利用し、部屋全体を冷やす/暖める空調方式

特徴

- ・ムラの無い自然な温度変化と安定した涼しさ/暖かさをつくる
- 機器からのドラフト(風)を感じない
- 体感温度における省エネ効果がある



例「PSパネル冷暖房」 ルーバー状のパネル内に冷水/温水 を循環させ、パネルからの放射と 自然対流を利用したシステム



例「床輻射 冷暖房」 床下空間に冷温風を吹き、床からの 輻射熱によって室内全体を快適な 温度環境に保つ

□個別利用の部屋:高効率パッケージエアコン(ヒートポンプ式)

(十分な地中調査によって地中熱利用も検討)

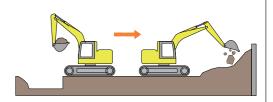
4.SDGsに貢献する工法、材料

- ・脱炭素社会の実現のため、建物は環境負荷の 少ない木造を採用(一部は鉄骨造)
- ・流通材である小径木材を構造材に多用し、 後の活用を可能とする
- ・木造でつくることによる植林・伐採・建築・解体の リサイクルの輪を通じてサステナビリティに寄与する



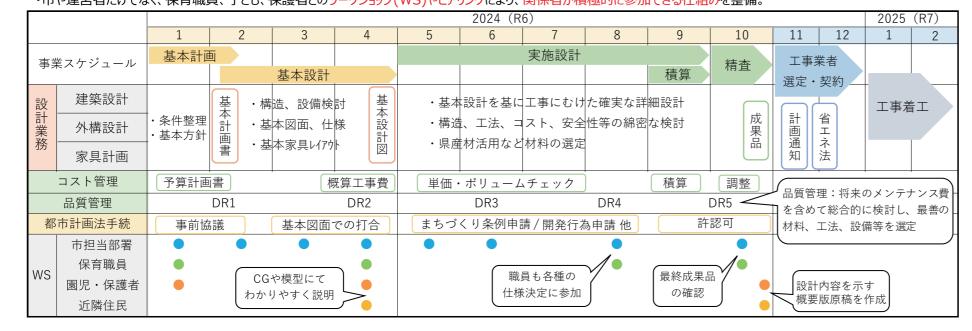


・発生土(根切土)をだんだんテラスや築山に 利用し、廃棄物を抑制し、コストを削減する



■ 実施手順 及び 工程計画(設計プロセス) 【提案課題⑤】

- ・豊富な経験を生かしたきめ細かい設計、徹底したコスト管理、品質管理/デザインレビュー(DR)を行う。
- ・市や運営者だけでなく、保育職員、子ども、保護者とのワークショップ(WS)やヒアリングにより、関係者が積極的に参加できる仕組みを整備。



豊富な実績をもとに関係者の声を形にするチーム体制

- ・保育施設に精通した経験豊富な 担当者からなる特別チームを編成。
- ・5つの専門技術のバックアップチームが的確にサポート。
- ・本計画ではCASBFF(建築環境総合性能評価システム)認証取得を目指す。
- ・チーム内に女性や子育て世代も多く、利用者と同じ目線になって施設を考えつつ 専門家として適格な業務に当たる。

